

令和 8 年度

丹波県民局当初予算（案）の概要

兵庫県丹波県民局

令和8年度丹波県民局施策体系表

[重点目標Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ]

I 「森」の保全と活用 ー守り、活かすー 4,004 千円 ①

・ 丹波の里山づくり促進事業（アクティブ・フォレスト・プロジェクト）	1,700	・・・ P 1
拡 ・ 丹波の環境パートナーシップづくり事業	1,093	・・・ P 2
・ 不法投棄をさせない！きれいな丹波づくりの推進	211	・・・ P 3
・ 桜づつみ回廊の美観保全	1,000	・・・ P 4

II 集落、まちの創生ー居心地の良い「場」の創出ー 14,085 千円 ②

・ 「丹波地域の農地整備ビジョン」の策定	3,000	・・・ P 5
・ 地域でため池を守るプロジェクト	1,000	・・・ P 8
・ まちの拠点創造プロジェクト	1,500	・・・ P 9
・ 移住・定住促進支援事業	1,620	・・・ P 10
・ JR加古川線維持・利用促進事業	3,500	・・・ P 11
・ JR福知山線の利用促進	1,300	・・・ P 12
・ 学生等による地域貢献活動の推進	1,100	・・・ P 13
・ 地域防災力の充実強化事業	1,065	・・・ P 14

III 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり 53,607 千円 ③

・ 兵庫丹波ブランド農産物の生産振興強化	3,677	・・・ P 15
・ 兵庫丹波ブランド農産物の魅力発信	3,800	・・・ P 16
新 ・ 丹波ブランド農産物新商品開発応援事業	2,320	・・・ P 17
・ 地域特産物の安定生産技術確立	2,000	・・・ P 18
拡 ・ 丹波の地酒魅力向上事業	1,500	・・・ P 19
・ 食文化ツーリズム・プロジェクト	500	・・・ P 20
拡 ・ 丹波広域観光推進事業	9,140	・・・ P 21
新 ・ 四季の丹波魅力発信事業	8,000	・・・ P 22
・ 恐竜化石フィールドミュージアムの推進	5,274	・・・ P 23
新 ・ ご当地VTuberコラボ魅力発信事業	1,380	・・・ P 24
・ 丹波すぐれもの大賞-TAMBA INNOVATION AWARD-による顕彰	740	・・・ P 25
・ 人材確保・産業立地推進事業	875	・・・ P 26
・ “シリ丹バレー”構想の推進	14,401	・・・ P 27

IV 柔軟な働き方が可能な社会の形成 0 千円 ④

- ・ 民間副業人材の活用・ユース起業アカデミーの開催 - “シリ丹バレー”構想の推進-(再掲)

V 創造的人材の育成・活用と地域文化力の向上 6,416 千円 ⑤

・ TAMBAのもりびと10万人計画～丹波の森創造プランの実践～	1,479	・・・ P 28
・ たんばユース躍動プロジェクト	2,097	・・・ P 29
・ シューベルティアーデたんばの支援	1,789	・・・ P 30
・ 集落文化発掘・体験事業	1,051	・・・ P 31

VI 人と人とのつながり拡大と新たなコミュニティの出現 6,037 千円 ⑥

・ 丹波2050地域ビジョン推進事業	6,037	・・・ P 32
・ スマート・コミュニティ・プロジェクト、丹波型事業共創コミュニティ形成事業 - “シリ丹バレー”構想の推進-(再掲)		

その他 共通事務費等 10,559 千円 ⑦

[計30事業(再掲除く)：新規3 拡充3 継続24]

$$\text{①}+\text{②}+\text{③}+\text{④}+\text{⑤}+\text{⑥}+\text{⑦}=\underline{94,708 \text{ 千円}} \text{ a}$$

$$\text{a} \div \text{b} = 90.2\%$$

(参考) 令和7年度予算額 104,950 千円 b

丹波の里山づくり促進事業 (アクティブ・フォレスト・プロジェクト)

1 事業目的

丹波地域では、昭和63年に「丹波の森宣言」を採択し、地域全体を一つの森としてとらえ、自然と人と文化が調和した地域づくりを進めてきた。

その一環として、次の世代へ「美しい里山」を繋いでいくため、里山づくりに向けた意識醸成や情報発信の取組を県民局、丹波篠山市、丹波市及び(公財)兵庫丹波の森協会が共同して推進する。

2 事業内容 (平成30年度～)

(1) 丹波の森を未来につなぐ事業

ア 里山育成調査研究 (令和7年度～令和10年度)

丹波の森を未来へつなぐ意識醸成と新たな担い手の確保を図るとともに、SDGsやネイチャーポジティブを推進するため、多様な森林の形態毎の管理指針の策定を目指す。

兵庫県丹波の森公苑内にヒノキが主体の針葉樹ゾーン、広葉樹が主体の里山ゾーンなどに試験区を設け、森林整備による植生や動物、昆虫の変化を調査する。また、里山整備の担い手を育成するため、調査協力者(森林所有者、里山活動団体など)に対し意識醸成を図る。



里山育成調査研究 (植生調査)

(2) 丹波の里山づくり発信事業

地域住民等が自ら持続的に里山を整備できるよう、その活かし方、楽しみ方などを広く情報発信する。

ア 里山活動団体への支援 (平成30年度～)

モデル団体に認定した活動団体等の要望に応じて、アドバイザーを派遣し、整備計画の策定や技術指導など持続的な活動ができるよう支援する。

イ WEBサイト「森機応変」の整備 (令和4年度～)

丹波の里山に関わる活動の情報発信だけでなく、森林所有者からの相談や里山資源を活用した加工品販売などに対応するワンストップ窓口であるWEBサイト「森機応変」を開設している。コンテンツ充実させ、地域内外の人や企業との繋がりを推進する。

(URL: <https://tanba-satoyama.jp/>)



WEBサイト「森機応変」

3 予算額 1,700千円

担当部署	担当者	TEL
丹波農林振興事務所 森林課	森林課長 上村 公浩	内線306 (直)0795-73-3795

㊦ 丹波の環境パートナーシップづくり事業

1 事業目的

「源流の里」である丹波地域には、貴重な動植物をはじめとする多様な生物が生息しており、その保全については、県、市、住民団体等関係主体が連携し、継続して活動できる仕組みとして、平成25年に「丹波地域環境パートナーシップ会議」を設置し、貴重な動植物の保全・再生意識の高揚、環境学習を実践することで、SDGsに幅広く取り組んでいる。

令和8年度は、7年度同様、引き続き環境学習プログラムを実施する。また、隣接した地域（北播磨、阪神北、京都府の隣接地域等）とシンポジウムを実施する。

2 事業内容(平成25年度～令和8年度)

(1) 情報誌等による情報発信、交流促進(継続)

平成26年度から開始した情報誌の発行等を継続し、情報発信、会員相互の交流促進を図る。

(2) 環境学習プログラムの提供(継続)

パートナーシップ会議参加団体から小学校や中学校等に講師派遣を行い、丹波地域の自然(里山、河川、生物等)を活かした環境学習プログラムの提供を行う(出前講座の実施)。

(例) 水生生物調査講座、地球温暖化防止講座、間伐体験講座、木工体験、特定外来生物講座

(3) 生物多様性保全対策

① シンポジウム(拡充)

令和7年度に実施したネイチャーポジティブ宣言を具体的なものとするため、専門家や活動団体から、生物多様性保全の重要性、実践方法等について学び、隣接した地域(北播磨、阪神北、京都府の隣接地域等)と協力しながら、ネイチャーポジティブを実現するためのシンポジウムを実施し、同時にSDGs達成を目指す。

会場：丹波市または丹波篠山市 時期：11月～1月の1日

対象：一般県民(大人中心、現地、WEB 200人程度)

内容案：講演(専門家等)、事例紹介(活動家等)、パネルディスカッション・意見交換

② 生物多様性保全のための特定外来生物対策(拡充)

特定外来生物対策のためのボランティア監視員制度を運営する。

3 予算額 1,093千円



(写真：令和6年度のパネルディスカッションの様子)

担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 環境課	室長補佐兼課長 石倉 洋介	内線278 (直)0795-73-3773

不法投棄をさせない！きれいな丹波づくりの推進

1 事業目的、効果等

丹波地域の産業廃棄物の不法投棄対策として管内のパトロールを実施しているが、平成25年度から開始した「不法投棄をさせない！きれいな丹波づくり」の効果もあり、平成25年度以降は10トン以上の不法投棄はなかった。

表 10t以上の不法投棄事案 上段：件数 下段：投棄量(t)

	R2	R3	R4	R5	R6
丹波地域	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
県全体	4 860	5 14,059	2 23,350	1 2,771	3 63

令和8年度も、これまでの事業に引き続き取り組むとともに、不法投棄の早期発見及び未然防止を図るため、監視カメラ等の機材の貸出しを行う。

2 事業内容(平成25年度～令和8年度)

(1) 不法投棄防止講習会の開催

丹波地域及びその周辺の建設業者等を対象とした講習会を年1回秋頃開催し、法令等の周知、検挙事例の紹介等を行い法令遵守の徹底を呼びかけ意識の向上を図る。

- ・ 時期：令和8年10月～11月頃
- ・ 講師：学識者や専門家(計2名)
- ・ 対象：丹波地域及びその周辺の建設業者、ボランティア不法投棄監視員、行政、警察等
- ・ 会場：丹波地域(丹波篠山市又は丹波市)の会場を使用



(R7 講習会の様子)

(2) 不法投棄防止協力事業所及びボランティア不法投棄監視員の積極的活用

不法投棄防止協力事業所(94事業所)及びボランティア不法投棄監視員(28名、任期：令和5年度～7年度、8年度更新)による県民局等への通報制度を引き続き運用し、管内の関係機関と連携して、不法投棄の早期発見及び未然防止を図る。

(3) 監視カメラによる不法投棄の未然防止

監視カメラを用いて夜間や休日等、住民や行政の監視が行き届かない時間帯の不法投棄を未然に防止するために不法投棄多発地点に監視カメラを設置している。近年、県下では大規模な不法投棄事案が発生しており、管内での不法投棄の未然防止の強化を図るため、監視カメラ等の機材の貸出しを実施する。

3 予算額 211千円

担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 環境課	室長補佐兼課長 石倉 洋介	内線 278 (直)0795-73-3773

桜づつみ回廊の美観保全

1 事業目的

兵庫県は、平成3年度から12年度にかけて、瀬戸内海から日本海を結ぶ延長約170kmの河川沿い(武庫川～篠山川～加古川上流～円山川)を約5万本の桜でつなぐ「ふるさと桜づつみ回廊」を整備した。
整備されてから約30年が経過している桜づつみ回廊について、市と連携して、桜の保全活動を行う団体を支援し、丹波地域の桜の保全、長寿命化を図る。

2 事業内容

桜の保全活動を実施し、市が補助を行う地域住民団体を対象に、団体が実施するてんぐ巣病対策や桜守(樹木医)の指導等の活動、その他景観保全に関する費用を補助する。

<対象団体>

桜の保全活動を実施し、市が補助を行う地域住民団体

丹波篠山市：ささやま桜協会※¹

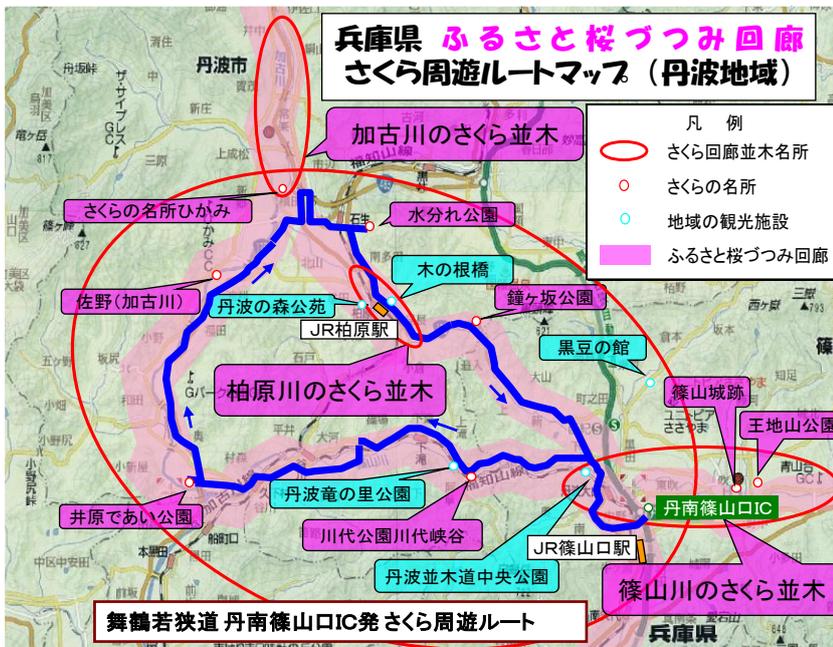
※1：桜守、自治会、まちづくり協議会、造園組合、観光協会等で構成する団体で、丹波篠山市内の桜の保全活動を実施

<対象事業>

補助対象経費 団体が実施するてんぐ巣病対策又は桜守(樹木医)の指導等の活動、その他景観保全に関する費用

補助額 市と同額を補助(県負担分は上限1,000千円)

3 予算額 1,000千円



桜づつみ回廊周遊ルート



篠山川沿いの桜づつみ(丹波篠山市東吹)

担当部署	担当者	TEL
丹波土木事務所 企画調整担当	所長補佐 乳原文文	内線353 (直)0795-73-3828

「丹波地域の農地整備ビジョン」の策定

1 事業目的

黒大豆や栗、小豆などのブランド農産物を有する丹波地域は、早くからほ場整備が進められ、県下でも高い整備水準を有しているが、水路等農業用施設の老朽化や維持管理が課題となっている。そこで、次代の農業経営にマッチした農業基盤の整備に向け、スマート農業機械の導入や丹波ブランド農産物の生産性向上の促進を図りながら、作業の安全や豊かな自然環境にも配慮した「丹波地域の農地整備ビジョン」を策定する。

2 事業内容（令和7～9年度）

(1) 農地整備ビジョン検討会の開催（令和7, 8年度）

農地・農業用施設にかかる維持管理の現況を把握し、「農業者の負担軽減」「農産物の増産」「生態系に配慮」を目的とした農地整備手法についての検討会を開催する。

（構成員：農業者、学識経験者、管内各市、県民局）

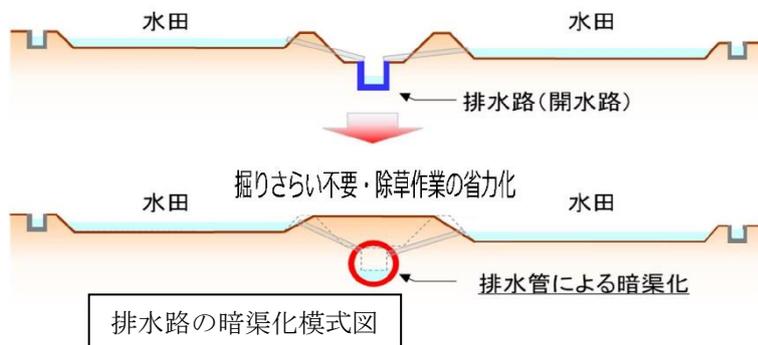
(2) ケーススタディの実施（R8年度）

・排水路管路化や法面の緩勾配化など検討会で検討された項目を、実際にはほ場で整備し効果検証を行うとともに、展示ほ場として積極的PRに活用する。

(3) 農地整備ビジョンの策定・啓発（R9年度）

丹波地域の農地整備ビジョンを策定し、集落や管内各市に対し、再整備を促進するツールとして普及・啓発を図る。

3 予算額 3,000千円

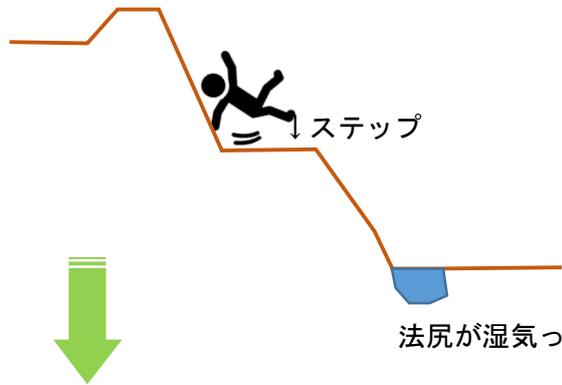


暗渠化された排水路

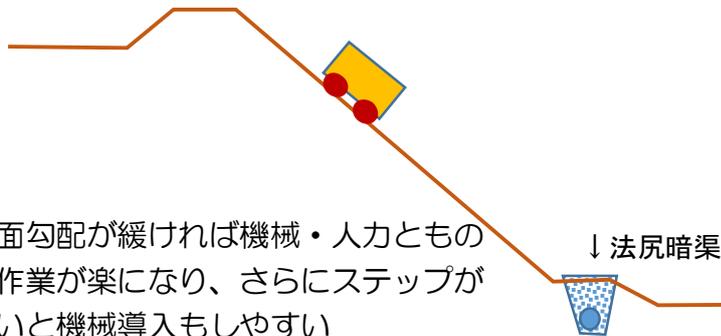
担当部署	担当者	TEL
篠山土地改良事務所 農村計画課	課長 戸田 久雄	(直)079-552-7417

農地整備ビジョン イメージ図

(例1) 作業性を高めるための整備イメージ



勾配が急になると作業が危険なため草刈りが放置される場合が多い



法尻の湧水は積極的に排出することを基本とすれば作業効率が上がる

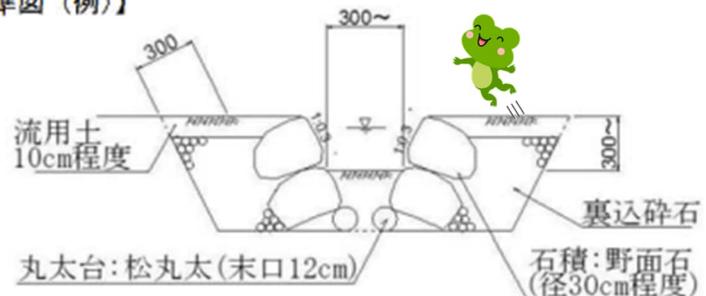


(例2) 生態系に配慮した整備イメージ

【施工例】



【標準図 (例)】

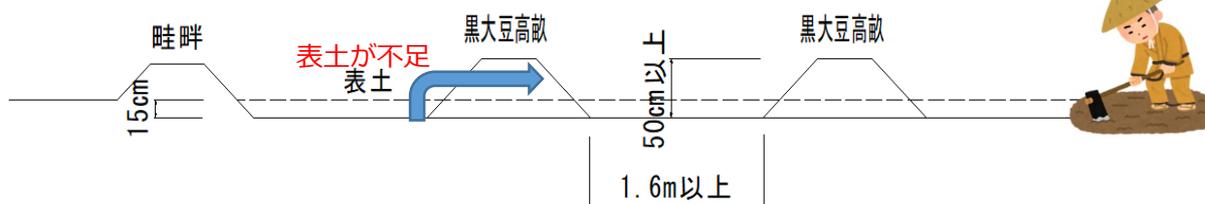


(例3) 畑作に対応したほ場の整備イメージ

通常のほ場



黒大豆を生産性向上させるためのほ場



丹波篠山市農業遺産推進協議会 HP より

- ・ 表土が不足し高畝ができない
⇒ 表土厚を確保した整備
- ・ 乾田化ほ場整備によりできているが、最近の高温傾向で用水が必要との指導に変化
⇒ 黒大豆栽培の用水量を考慮した用水路の整備

II 集落、まちの創生—居心地の良い「場」の創出—

地域でため池を守るプロジェクト

1 事業目的

「ため池の保全等に関する条例」に基づき、適正な管理と多面的機能の発揮の促進を図るため、ため池の景観や、それにまつわる地域の文化・歴史を県民に対して広く発信することにより、都市農村交流を促進するとともに、ため池の所有者等に対してため池の管理や保全の意識を高揚させる取組を実施する。

2 事業内容（令和3年度～令和8年度）

(1) ため池のかいぼり実施

ため池の多面的機能について再認識し、保全への意識を高めるため、ため池のかいぼり等を実施する。

実施内容：かいぼり、機能・構造研修会、自然観察会など

実施箇所：丹波地域のため池2箇所



ため池かいぼり（千代田池）

(2) 農業用ダム・ため池魅力発信事業

丹波地域のため池は、山裾に設置された谷池形状のものが多いため、県民の目に触れる機会が限られているが、これらが持つ優れた景観を観光資源として活用し、様々な方法でため池の魅力を広く発信することで、地域への来訪者を増やし、地域の活性化を図る。

ア インフラツーリズムマップ作成（一部変更）

丹波地域の農業用ダムや主なため池を掲載した案内マップを整備し、都市住民などが現地を訪れる際に活用できるようにする。



ため池の魅力発信
(於：県立丹波の森公苑)

イ ため池情報の発信

ため池ツーリズムマップに掲載する16箇所のため池について、ため池の諸元や歴史・伝承のほか、緊急時の連絡先等を記載した看板を設置し、ため池ツーリズムの道しるべとする。看板には、来訪者が水難事故等万一の際に必要な連絡先に容易にアクセスしたり、詳細な情報を確認できるようQRコードを貼付する。



更新するため池看板
(鏑市ダム：丹波篠山市火打岩)

(3) 事業主体

県

3 予算額 1,000千円

担当部署	担当者	TEL
篠山土地改良事務所 農村計画課	課長 戸田 久雄	(直)079-552-7417

Ⅱ 集落、まちの創生－居心地の良い「場」の創出－

まちの拠点創造プロジェクト

1 事業目的

丹波地域の中心市街地において、まちの求心力向上・賑わいの創出に資する事業や活動を官民共同で推進する。

2 事業内容

(1) 活動拠点（柏原スタジオ）の運営支援等

まちの拠点創造プロジェクト推進の拠点の一つと位置づける「柏原スタジオ」の運営を支援する。

支援の概要

- ・スタジオの家賃や光熱水費等の経費の補助
- ・中高生の放課後の居場所づくりのための運営の委託

○柏原スタジオの利用状況



放課後の居場所で、思い思いの時間を楽しむ高校生



関西学院大建築学部フィールドワーク
(地元建築士との意見交換)

3 予算額 1,500千円

担当部署	担当者	TEL
丹波土木事務所 まちづくり建築課	所長補佐兼課長 大田 圭信	内線391 (直)0795-73-3860

移住・定住促進支援事業

1 事業目的

近年、田舎暮らしや地方移住への関心がある中で、移住後の暮らしなどを体験できるツアーのニーズが高まっている。そこで丹波地域両市にまたがるツアーを実施することで、ツアー参加者が両市を比較でき、移住後の生活が明確になり、移住前後のギャップを減らすことで更なる移住者数の増加・定住の促進を図る。

2 事業内容

(1) 移住・定住促進支援事業

丹波地域への移住・定住の促進を図るため、先輩移住者との交流会や空き家を巡る、日帰りまたは一泊二日のツアーを実施する企業・団体等に対して、ツアー実施に要する経費を補助する。

① 補助対象者

丹波地域に本店又は活動拠点を有し、移住・定住を促進する事業を行う中小企業、中小企業団体（事業協同組合等）、小規模事業者、個人事業主等（地域団体や農業従事者等を含む）

② 補助対象

ツアー実施に要する経費

（訪問先講師謝礼、バス借上げ費、物品購入費、宣伝費 等）

③ 補助額

日 帰 り：上限8万円

一泊二日：上限16万円

3 予算額 1,620千円



ツアー参加者と地元の交流会



空き家見学の様子

担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 地域共創課	室長補佐兼課長 田路 正崇	内線414 (直)0795-73-3779

Ⅱ 集落、まちの創生－居心地の良い「場」の創出

J R加古川線維持・利用促進事業

1 事業目的

J R加古川線（西脇市駅～谷川駅間）は、J Rが公表した輸送密度 2,000 人/日未満の路線に該当しており、近畿でもっとも厳しい利用状況にあり、引き続き実効性のある利用促進に取り組む必要がある。

このため、R 7年 2月に設立した丹波市、西脇市、北播磨県民局、丹波県民局を構成員とした J R加古川線（西脇市駅～谷川駅間）利用促進協議会による地域一丸となった効果的な事業を実施するとともに、沿線駅前でのリレーマルシェを継続実施することにより同線の利用促進に繋げる。

2 事業内容

(1) 加古川線利用促進事業（令和 7 年度～）

J R加古川線（西脇市駅～谷川駅間）利用促進協議会で、次の事業（案）等を実施する。

① J R加古川線沿線周遊促進事業

電車内や駅舎等を利用したデジタルスタンプラリーや駅からのウォーキングイベントなどを実施する。

② 地元高校生等による地元気運醸成事業

地元高校等の協力により鉄道利用促進メッセージ入り中吊り広告等を播州織で作成し、電車内や駅舎等に掲示する。

③ J R加古川線沿線魅力情報発信事業

地元住民の協力により、SNS等を活用して、J R加古川線及び沿線地域の魅力を発信する。

④ 啓発・P R資材作成事業

利用促進協議会ロゴマークを活用したトートバック等の啓発・P R資材を作成する。

(2) 加古川線リレーマルシェ（令和 5 年度～）

谷川駅・久下村駅の駅前広場等において、キッチンカーや屋台の出店によるマルシェ（夜市）を開催する。

北播磨県民局管内でも開催し、リレーマルシェとして取り組む。

実施時期：年 1 回程度

実施場所：谷川駅または久下村駅周辺

実施主体：丹波県民局、久下自治振興会 等



加古川線利用者で賑わう久下村駅前

3 予算額 3,500 千円

担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 総務防災課	班長(企画防災担当) 藤原 猛雄	内線 2 1 3 (直)0795-73-3718

J R 福知山線の利用促進

1 事業目的

J R 福知山線は、阪神地域と但馬地域を結ぶ重要な幹線であり、丹波地域にとっては定住化の促進、交流の活性化などこれからの地域づくりに必要不可欠な社会基盤である。

J R 福知山線の利用促進に向けた取組みを、市や鉄道事業者等と連携を図りながら実施し、福知山線の乗車人員の増加を図る。

2 事業内容

(1) 「たんば鉄道イベント実行委員会※」の活動推進

秋の観光シーズンに京阪神地域からの観光客向けの P R 活動や丹波市内の駅を起終点とする「丹波もみじめぐりバス」などのイベントを実施する。

※ 「たんば鉄道イベント実行委員会」：丹波市、県(丹波土木)、丹波市観光協会、丹波市商工会、JR西日本篠山口駅で構成(事務局：丹波市)

令和7年度

- ・広報キャラバン P R 活動 京橋駅 9/19開催 1,500部配布
- ・丹波もみじめぐりバス 柏原駅～高源寺他 11/14, 16, 22開催 75名参加
- ・恐竜化石めぐりウォーキング 谷川駅～丹波竜の里公園他 11/22開催 21名参加
- ・謎解きクエスト 柏原駅、普通列車車内他 12/20～2/23開催中

(2) 丹波篠山市観光協会と連携した活動推進

春と秋の観光シーズンに丹波篠山市内の駅を起終点とした「駅からはじまるハイキング」のイベントを実施する。

令和7年度

- ・クリンソウの群生地をめざして 篠山口駅～多紀連山御嶽 5/11開催 18名参加
- ・晩秋の丹波3つのダムめぐり 篠山口駅～栗柄ダム他 11/19開催 18名参加

3 予算額 1,300千円



恐竜化石めぐりウォーキング
(丹波竜の里公園：丹波市山南町阿草)



クリンソウの群生地をめざして
(多紀連山御嶽：丹波篠山市火打岩)



担当部署	担当者	TEL
丹波土木事務所 企画調整担当	所長補佐 乳原正文	内線353 (直)0795-73-3828

II 集落、まちの創生—居心地の良い「場」の創出—

学生等による地域貢献活動の推進

1 事業目的

学生等が地域団体と連携して実施する自主的な地域貢献活動を支援するとともに、大学生等からまちづくり推進等に関する提言やアイデア等を得て、地域の課題解決や活性化を図る。

2 事業内容

(1) 活動費等の補助

ア 対象団体

丹波地域において地域連携活動を実施する大学生、又は大学生と大学を卒業した社会人（以下「大学生等」という。）が5人以上で構成する団体

イ 補助概要

補助額：1団体あたり20万円以内（県1／2，市1／2）

補助対象：交通費、ボランティア保険、報告書作成費、活動地周辺での宿泊費等

採択団体：10団体程度

ウ 対象活動

学生等の団体が、地域団体と連携・協働して実施する地域貢献活動

(2) 活動報告会の開催（2月頃）

参加団体間の交流を図り、情報共有による活動の更なる深化を図る。

令和7年活動団体の出身大学

大谷大学、関西学院大学、関西国際大学、関西大学、近畿大学、神戸大学、神戸学院大学、武庫川女子大学、

（参考：令和7年度の活動状況〔丹波地域にて県内外の11団体が活動〕）



地元高校生と竹林整備の竹材を活用したベンチの製作

【関西大学】



ランニングイベントの企画、運営（休憩ポイント運営）

【神戸学院大学】

3 予算額 1,100千円

担当部署	担当者	TEL
丹波土木事務所 まちづくり建築課	所長補佐兼課長 大田 圭信	内線391 (直)0795-73-3860

地域防災力の充実強化事業

1 事業目的

多様化する自然災害に備えた地域防災力の強化を図るため、平時から市域を越えた丹波地域内の関係機関と「顔が見える関係」を構築するとともに、「自分たちの命は自分たちで守る」という意識を醸成し、地域防災力の強化を図る。

また、阪神・淡路大震災の経験と教訓を承継し、県民一人ひとりが大震災を忘れず、将来の災害に備えるため、「ひょうご安全の日」である1月17日の前後に、学校等と連携した防災訓練を実施するほか、「たんばっ子！学びフェスタ」にて、青少年を対象とした防災教育を行う。

2 事業内容

(1) 地域防災力向上事業

自主防災組織、社会福祉協議会、災害ボランティア団体、行政等の災害時支援関係機関・団体と課題等を共有し、防災に関する知識を習得する研修会を実施する。

時期：令和8年6月頃

内容：研修会、ワークショップ

(2) 「1.17は忘れない」地域防災訓練推進事業

学校と自治会等の地域住民、関係機関・団体等が連携した防災訓練を実施する。あわせて子どもたちに阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承する「ひょうご安全の日」地域のつどいを開催する。

時期：令和9年1月

内容：「ひょうご安全の日宣言」の読み上げ、地震を想定した避難訓練、起震車による地震体験訓練、防災クイズ等



地震体験訓練

(3) 丹波青少年の防災訓練教育推進事業

青少年を対象に震災の経験と教訓を継承し、防災対策への興味・関心を高めるため、「たんばっ子！学びフェスタ」において防災教育を行う。

時期：令和8年11月

内容：水消火器体験、被災地状況のパネル展示や防災対策に関するブースの設置

3 予算額 1,065千円

担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 総務防災課	班長(企画防災担当) 藤原 猛雄	内線213 (直)0795-73-3718

兵庫丹波ブランド農産物の生産振興強化

1 事業目的

兵庫丹波地域のブランド農産物である栗、小豆等の生産維持・拡大に向け、振興方策の検討や条件整備等による生産体制の強化を図る。また、丹波地域で古くから取り組まれてきた有機農業のさらなる生産拡大を図るため、農業者の技術習得や有機農産物の付加価値向上、販路獲得の取組を支援する。

2 事業内容

(1) 丹波栗の郷づくり推進

ア 丹波栗再生戦略会議の運営

県民局、丹波篠山市、丹波市、J A、商工会、観光協会等で構成する「丹波栗再生戦略会議」において、担い手の確保や育成、栽培面積拡大等の振興方策を検討する。

イ 生産体制の強化

(ア) 新植園の条件整備

新規植栽園の成園化を図り、生産量向上を促進するため、大規模剪定、縮間伐、獣害対策、凍害対策等に要する経費を助成する。

(イ) 栽培技術向上支援

丹波栗の高品質化や多収穫などの栽培技術を新規栽培者等に広く普及するため、生産者組織が行う技術研修活動を支援する。

(ウ) 丹波栗苗木生産体制整備

苗木の試験ほを設置し、丹波地域に適した優良苗木の生産・供給体制を確立する。

(2) 大納言小豆対策

丹波大納言小豆の収量や品質向上に向けた栽培技術実証や認知度の向上に向けたPR活動を、J Aや丹波市等の関係機関と連携して実施する。

(3) 丹波ブランド有機農産物の生産力強化

ア 新規就農者等の技術力・生産力を高める取組支援

有機農業の技術や知識の習得、生産力向上に係る勉強会や研修会の開催を支援する。

イ 有機農産物の価値を高める取組支援

有機農産物の量販店等での販売・取引を有利に進めるため、有機 JAS 認証の新たな取得を支援する。

ウ 販路の確保・拡大の取組支援

有機農法への理解醸成や有機農産物の消費拡大を目的に地域内外の消費者や実需者を対象としたイベントの開催、PR 資材の作成・活用を支援する。



栗園の獣害柵の設置

3 予算額 3,677千円

担当部署	担当者	TEL
丹波農林振興事務所 農政振興課	課長 柳澤 吉彦	内線300 (直)0795-73-3793

Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

兵庫丹波ブランド農産物の魅力発信

1 事業目的

黒大豆・小豆・粟・山の芋に代表される丹波地域のブランド農産物のブランド力をより強固なものとし、四季を通じた丹波地域の賑わいを創出するため、各種フェアの開催を支援する。

2 事業内容

(1) 兵庫丹波ブランド農産物の各種フェアの開催

ア 「丹波栗フェア」の開催

丹波栗を味わえる店舗、商品などを広く紹介するため、14回目となるフェアを開催する。

開催時期：9月～11月(予定)

※令和7年度：9/20～11/3 78店舗

イ 「ぜんざいフェア」の開催

丹波市の丹波大納言小豆から作ったぜんざいを味わえる市内飲食店等を紹介するため、11回目となるフェアを開催する。

開催時期：11月～2月(予定)

※令和7年度：11/1～2/18 34店舗

ウ 「山の芋フェア」の開催

山の芋の生産者や市内飲食店等と連携し、産地としての魅力を発信するため、8回目のフェアを開催する。

開催時期：11月～2月(予定)

※令和7年度：11/22～2/1 39店舗

3 予算額 3,800千円



各種フェア(丹波栗、ぜんざい、山の芋)

担当部署	担当者	TEL
丹波農林振興事務所 農政振興課	課長 柳澤 吉彦	内線300 (直)0795-73-3793

Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

⑧丹波ブランド農産物新商品開発応援事業

1 事業目的

丹波地域のブランド農産物を活用した新商品開発事業においては、これまで、丹波地域でブランド農産物を生産する農林業者等が、自ら又は商工業者と連携して実施する新商品開発を支援してきた。

本事業では、開発事業者の裾野を一層拡大するとともに、新商品開発における企画立案から内容のブラッシュアップに至るまでの事業推進を図るため、個別指導による基礎的能力の向上を支援する。併せて、阪神地域における消費者モニタリングを実施し、その結果を商品開発に反映させることにより、商品の市場価値の向上を図る取組を一体的に支援する。

これらの取組により、丹波地域において将来的に中核となる開発事業者の育成を図り、地域ブランド力の一層の強化につなげるものとする。

2 事業内容

(1) 新商品開発事業

丹波地域に主たる事業拠点を有し、丹波ブランド農産物を生産する農林業者等自ら又は商工業者と連携して新商品開発を行おうとする者で、特に売れる商品づくりをし、販路拡大を目指す方を対象に、新商品開発にかかる試作や販売促進の経費を支援する。

ア 募集定員：4組織（個人参加も可） ※審査会により事業者を選定

イ 支援内容：①アドバイザーによる個別相談（年間2回）

②開発商品や途上の仕掛品について、消費者ニーズ把握のための阪神地域在住者等を対象としたグループインタビューの実施（商品のブラッシュアップ）

ウ 実施要件：①アドバイザーによる個別相談会（2回）への参加

②成果報告会での開発商品等の発表

(2) 商品開発セミナー

丹波地域に主たる事業拠点を有し、丹波ブランド農産物を生産する農林業者等自ら又は商工業者と連携して新商品開発を行おうとする者を対象とした、売れる商品づくりの具体化をテーマとするセミナーを開催する。

ア 募集定員：15組織程度（個人参加も可）

イ 開催時期：5月上旬

(3) 実施スケジュール

ア 事業者公募（3月下旬～5月下旬）



イ 審査会による事業者決定・新商品開発事業着手（6月）



ウ 新商品開発事業完了（1月）

エ 成果報告会（2月下旬）

3 予算額 2,320千円

担当部署	担当者	TEL
丹波農林振興事務所 農政振興課	課長 柳澤 吉彦	内線 300 (直)0795-73-3793

Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

地域特産物の安定生産技術確立

1 事業目的

兵庫丹波ブランド農産物（水稲、黒大豆等）の生産維持と農業経営の安定化を図るため、スマート農業技術の活用による省力化や気候変動に対応した栽培技術の構築に向けた実証を行うとともに、地域内への技術導入を推進する。

2 事業内容

土地利用型作物における安定生産の実証（令和7年度～）

ア 水稲栽培の省力化と高温に対応した安定生産技術実証

水稲において、ドローン等を活用した省力的な播種・防除・施肥作業の体系化に取り組む。また、地力や作物の生育にあわせた施肥体系の確立に取り組み、高温障害による品質低下の軽減と収量の高位安定化に向けた技術を実証する。



水稲におけるドローン直播

イ 高温少雨に対応した黒大豆の安定生産技術実証

黒大豆において、高温少雨での播種時期や省力的かつ効果的なかん水方法等に関する栽培技術体系を再構築し、収量及び品質確保に取り組む。



黒大豆における散水

3 予算額 2,000千円

担当部署	担当者	TEL
丹波農業改良普及センター 地域課	課長 大槻 孝子	内線321 (直)0795-73-3803

Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

㊦ 丹波の地酒魅力向上事業

1 事業目的

地場産業である清酒業の振興のため、竹田川源流の一つに位置する三宝ダムの管理トンネルにおいて、同水系の水を使用している丹波市内の3酒造と連携し、「Hyogo Sake 85」等を原料とした日本酒等を貯蔵・熟成させる貯蔵酒の取組を行う。貯蔵酒は、蔵出し時にイベントを実施するなど、「丹波^{みたら}三宝ダム貯蔵酒」として付加価値を持たせ販売促進を図る。

また、地場産業である丹波焼と合わせた販売イベントの実施や、県外食品系展示会への出展による販路開拓を行うことにより販売促進を図る。

2 事業内容

(1) 丹波三宝ダム貯蔵酒事業 (R3～)

① 酒造

株式会社西山酒造場、山名酒造株式会社、鴨庄酒造株式会社

② 時期

蔵入れ (3月下旬)、蔵出し (9月下旬)

商品公表・販売開始 (10月上旬)

③ 主な取組

共通ロゴ、チラシ、ポスター等の作成、SNS等による情報発信
販売イベント (10月中旬) の実施等



㊦ (2) 丹波焼と地酒の合同販売イベント (R8～新規)

① 酒造

5酒造 (丹波篠山市: 鳳鳴酒造、狩場一酒造・丹波市: 山名酒造、西山酒造場、鴨庄酒造)

② 合同販売イベント

ア 丹波地域の酒造と丹波焼の合同販売イベントの実施 (夏頃想定)

イ チラシ、ポスター等のイベント啓発品作成

㊦ (3) 県外食品系展示会への出展 (R8～新規)

① 酒造

5酒造 (丹波篠山市: 鳳鳴酒造、狩場一酒造・丹波市: 山名酒造、西山酒造場、鴨庄酒造)

② 主な取組

県外 (主に首都圏や京阪神等の大都市部) の食品系展示会への出展補助

(4) その他管内酒造との連携

周遊観光バスツアーでの酒蔵見学・体験プログラムや管内イベントへの出展など管内酒造と連携して魅力を発信

3 予算額 1,500千円

担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 地域共創課	班長(大丹波連携・観光担当) 鈴木 順子	内線 291 (直)0795-73-3788

Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

食文化ツーリズム・プロジェクト

1 事業目的

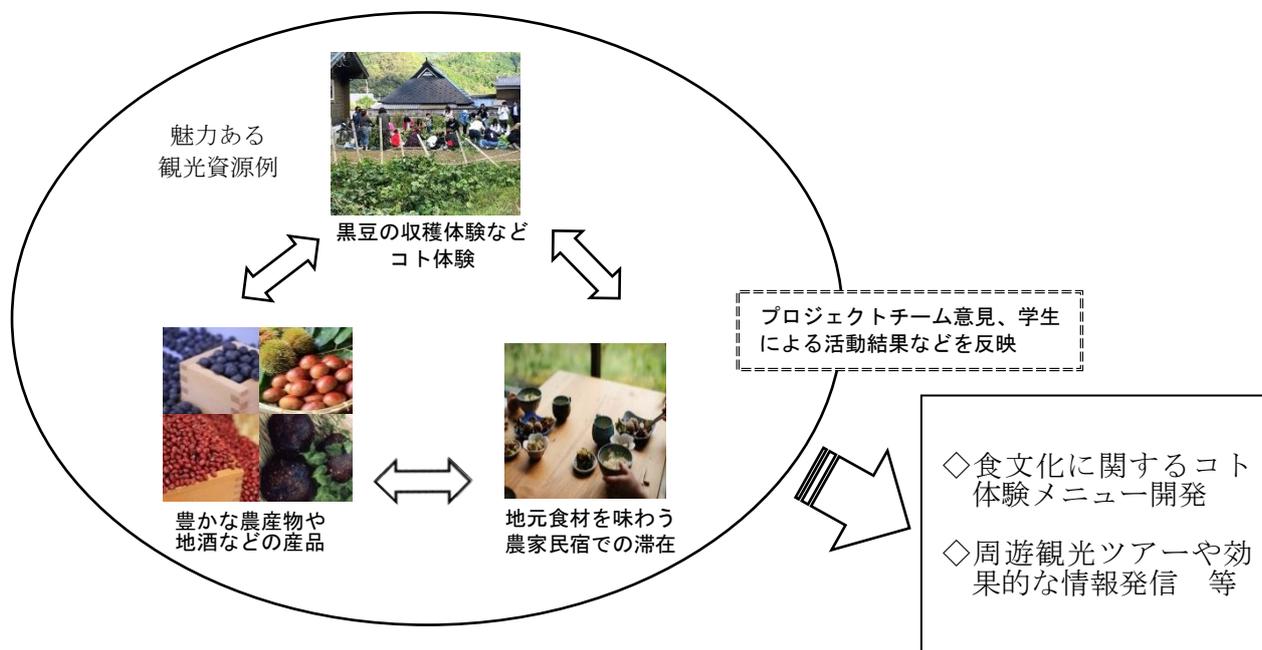
丹波地域の食や文化について、食材そのものを始め、育てる人の思いや地域ならではの味わい方、土地の風土など、五感の全てで地域の魅力をストーリーとして楽しむ食文化ツーリズムを推進する。

2 事業内容 (R4～)

- (1) 食文化ツーリズムの展開方策等を議論する「食文化ツーリズムプロジェクトチーム」を運営
- (2) 県と地域創生等に係る包括連携協力協定を結んでいる関西国際大学と連携し、観光学科学生が主体となって、生産者や飲食・観光事業者等の協力を得ながら、地域資源を活用したコンテンツの開発、イベント等を実施する。
- (3) プロジェクトチームの意見、学生による活動結果などを踏まえて、コト体験コンテンツの開発支援や着地型周遊観光ツアーの催行、WEBサイト「ぶらり丹波路」やSNS等を活用した情報発信などの取組を展開する。

3 予算額 500千円

[事業イメージ]



担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 地域共創課	班長(大丹波連携・観光担当) 鈴木 順子	内線 291 (直)0795-73-3788

Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

㊦ 丹波広域観光推進事業

1 事業目的

丹波地域の四季折々の魅力情報を様々な媒体により発信するとともに、兵庫県と京都府にまたがる大丹波地域などの広域観光を推進し、認知度を更に高め、誘客の促進、交流人口の拡大を目指す。

2 事業内容

㊦ (1) 丹波地域の観光情報の発信

- ① ウェブサイト「ぶらり丹波路」の管理運営
リーフレットと連動した特集記事やイベント情報等を発信
- ② リーフレット「ぶらり丹波路」の作成
特集テーマに基づく観光情報を新たな視点で発信
・作成部数：30,000部×2回
- ③ ぶらり丹波路ツーリズムマップの作成
・作成部数：10,000部
- ④ Instagramフォトコンテストの実施 等
- ㊦ ⑤ 都市部でのPRイベントへの出展
・東京や大阪などの都市部で、丹波地域の魅力をPRするイベントに出展する。



(2) 広域観光の連携推進

【大丹波連携】

- ① 大丹波ホームページ、SNSの運営・内容充実
大丹波地域の旬の観光情報等を適時に発信
- ② まるごと大丹波ドライブパス事業と連携した誘客促進
NEXCO西日本が実施するドライブパス事業（R7.4開始：ETC車がエリア内の高速利用時に定額で乗り放題）と連携し、大丹波地域への誘客促進キャンペーン事業を実施
・チラシ、ポスター等による情報発信
・キャンペーン事業の実施（大丹波ドライブスタンプラリー、Instagramフォトキャンペーン）
- ③ 大丹波観光推進委員会の運営

【北近畿広域観光連携】

- ① 北近畿エリアと連携した観光情報の発信等

(3) 着地型周遊観光バスツアー事業の実施

- ひょうごフィールドパビリオン、観光資源等を周遊する着地型周遊観光バスツアー事業を実施
- ・催行時期：令和8年6月～9年2月頃
 - ・催行回数：12回程度

予算額 9,140千円

担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 地域共創課	班長(大丹波連携・観光担当) 鈴木 順子	内線291 (直)0795-73-3788

④ 四季の丹波魅力発信事業

1 事業目的

丹波地域に展開される「フィールドパビリオン」のプロモーションを核として、視覚的・感覚的に丹波のリアルな魅力を伝えるため、四季折々の観光資源や風景、文化を映像とSNSを通じて発信し、若年層や訪日外国人、SNS利用層など多様な層へのアプローチ強化、丹波地域の認知度向上、誘客促進、交流人口の拡大と、地域活性化の促進を図る。

2 事業内容

(1) 四季の丹波 映像制作事業

- ① 発信媒体の活用
 - ・WEBサイト（ぶらり丹波路）への掲載
 - ・YouTubeチャンネル（ぶらり丹波路）での発信
 - ・SNS（Instagram、Facebook）等での定期的な発信
 - ・観光案内のデジタルサイネージ等での発信
- ② 観光PRイベントでの発信
- ③ スケジュール
 - ・4月～6月：春編映像制作・公開
 - ・7月～9月：夏編映像制作・公開
 - ・10月～11月：秋編映像制作・公開
 - ・12月～2月：冬編映像制作・公開
 - ・通年：SNS運用・プロモーション活動



(2) インフルエンサーによる丹波地域魅力発信事業

- ① 実施時期：5月～2月頃
- ② 投稿回数：50回程度（複数インフルエンサーにより投稿）
- ③ ターゲット：Instagramに関心が高く、地域内消費に寄与する層
- ④ 発信内容：ターゲットに適した観光施設、宿泊施設、体験など
- ⑤ 発信方法：リール動画、ストーリーズなど適した手法で発信

3 予算額 8,000千円



担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 地域共創課	班長(大丹波連携・観光担当) 鈴木 順子	内線291 (直)0795-73-3788

恐竜化石フィールドミュージアムの推進



1 事業目的

恐竜化石フィールドミュージアム構想に基づき、野外博物館の魅力を地域内外へ広く伝えることにより、フィールドミュージアムの浸透強化と地域内外からの更なる誘客を図る。

2 事業内容

(1) ご当地VTuberコラボ魅力発信事業（新規） ※再掲

フィールドミュージアムの館長などにVTuber「あいさきちい。」を位置づけ、丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会が開催する行事に合わせてコラボイベントを実施する。VTuberの持つ媒体で配信・告知を実施し、行事参加を募る。

(2) 企業部会の運営・副業的人材の活用（継続）

協議会のもとに設置した企業部会や、民間企業から招聘する副業的人材と連携し、民間企業の視点からコト体験のメニュー開発等を進める。

(3) 情報発信・プロモーション（継続）

フィールドミュージアム内でのイベント・展示会情報等をホームページと連動してSNSで発信。企業、関連団体、サポーター等の協力を得てSNSでの拡散（リツイート、リポスト）を促進する。

「大地とくらしのガイドブック」をフィールドミュージアム拠点施設・サテライトとともに、地域外のサービスエリアや公共施設等にも配架する。

(4) 人材育成・活用（継続）

潜在的顧客層の掘り起こしに向けサポーター制度を運用し、LINE公式アカウント等で定期的に情報を提供し、フィールドミュージアムへの来訪を促す。

発掘調査・研究事業やイベント事業を継続的に推進していくため、人と自然の博物館が認定する化石専門指導員の資格取得を働きかける。

(5) 商品開発、製作（継続）

丹波地域で発掘した恐竜・哺乳類をモチーフにした商品の企画・開発に取り組む。

(6) 出前化石発掘体験会（アウトリーチ事業）の実施（継続）

人と自然の博物館、化石専門指導員と連携し、丹波地域内及び都市部の県立公園等で化石発掘体験会を実施する。

(7) 丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会の運営支援（継続）

推進協議会の運営費を支援し、恐竜化石フィールドミュージアム構想の取組を進める。



【出前化石発掘体験会の様子】

3 予算額 5,274千円 ※再掲の新規事業除く

担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 地域共創課	地域振興専門員 山岸 勝弘	0795-73-3717



丹波地域恐竜化石
フィールドミュージアム

⑨ ご当地VTuberコラボ魅力発信事業

1 事業目的

篠山層群では、世界的にも希少な恐竜・ほ乳類化石等が発見されており、丹波地域恐竜化石フィールドミュージアムでは、その価値及び意義並びに丹波地域の魅力を広く情報発信する必要がある。

このため、恐竜化石の情報や魅力発信の強化を目的に人型恐竜として令和7年2月に誕生した丹波地域初のご当地バーチャルユーチューバー(VTuber)とコラボ事業を行い、VTuberの持つ情報発信力とファン層を取り込み、フィールドミュージアムの魅力発信と地域内外からの更なる誘客促進を図る。



「あいさきちい。」
1億1000万年前の丹波地域の地層から蘇ったヒト型恐竜で恐竜の力をもつアイドル

2 事業内容

フィールドミュージアムの館長などにVTuber「あいさきちい。」を位置づけ、丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会が開催する行事に合わせてコラボイベントを実施する。VTuberの持つ媒体で配信・告知を実施し、行事参加を募る。

(1) VTuberとのコラボイベント

恐竜トーク、化石レプリカづくり、丹波竜・角竜・VTuberコラボグッズ販売会、スタンプラリー等を想定。イベント参加者には人数限定で限定ノベルティを配布する。

(2) YouTube配信

フィールドミュージアムのイベント情報やトピックスを定期的にVTuberのYouTubeチャンネルで配信する。

(3) ショート動画投稿

フィールドミュージアムのイベント開催告知を内容としたショート動画を作成し、VTuberのYouTubeチャンネルに投稿する。

3 予算額 1,380千円

担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 地域共創課	地域振興専門員 山岸 勝弘	0795-73-3717

Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

丹波すぐれもの大賞-TAMBA INNOVATION AWARD-による顕彰

1 事業目的

地元企業の優れた企画・技術力を広くアピールし、地域の産業を活性化するため、地域発イノベーションを推進する革新的で高い技術力による製商品の製造や、地域資源を観光・交流につなげる事業やイベントを行う企業や団体等を「丹波すぐれもの大賞- TAMBA INNOVATION AWARD-」として表彰する。

2 事業内容 (H23～)

(1) 表彰

以下の3部門において審査を行い、特に優れた評価を受けた企業・団体等を表彰する。

- ① きらめき（製商品）部門
革新的で高い技術により開発された製商品
- ② わくわく（食料品）部門
丹波地域の特色を活かした独創的で優れた品質の食料品
- ③ ときめき（観光・交流）部門
地域資源を新たな工夫で活用し、観光・交流を促進する事業、イベント

(2) 募集

自薦又は他薦により表彰対象を募集する。

(3) 選考・表彰

審査委員会において選考し、県民局長が表彰する。

(4) 広報等

選考された製商品等は、パンフレットの作成・配布や県民だよりひょうご、ホームページ等の様々な機会を捉えて地域内外へ広く発信し、丹波のものづくり産業等への関心を高める。

また、賞の価値を高めていくため、受賞製商品は産業メッセ等の展示会へ出展し、情報発信する。



3 予算額 740千円

担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 地域共創課	班長(大丹波連携・観光担当) 鈴木 順子	内線291 (直)0795-73-3788

Ⅲ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり

人材確保・産業立地推進事業

1 事業目的

若者の地域定着やU J I ターンの促進等による若者人材の確保を図るため、「丹波地域人材確保協議会」(※)において、構成団体相互の連携のもと、若者と地元企業のマッチング応援事業等を実施する。

また、市及び関係機関と連携した企業の誘致活動を引き続き展開することにより、産業立地の推進を図る。

※「丹波地域人材確保協議会」構成団体

丹波県民局、柏原公共職業安定所、丹波篠山市、丹波市、丹波篠山市商工会、丹波市商工会、丹波雇用開発協会、管内6高等学校、氷上特別支援学校、篠山養護学校

2 事業内容

(1) 若者と地元企業のマッチング応援事業

内 容	事業名	主な対象者	開催予定時期
地元就職の支援	合同就職面接相談会	就職希望者(卒業見込、U J I ターン含む)	R8. 7月頃
	人材確保対策研修	企業の採用支援担当(商工会、行政等)	R9. 2月頃
将来の就職に向けた地元企業の紹介	高校生対象企業紹介フェア	高校生 企業採用担当	R8. 4月頃
	高校と企業との就職情報交換会	企業採用担当 高校進路指導職員	R8. 5月頃
	企業と大学等の就職情報交換会	企業採用担当 大学等キャリアセンター職員	R9. 2月頃

(2) 丹波地域企業の魅力情報の発信

- ① 学生や保護者らの地元就職への関心を高めるため、管内企業の魅力情報や地元就職した若者のインタビュー等を地元紙を活用して発信
- ② 大学等への企業紹介、企業向け研修会の開催等



高校生対象企業紹介フェア
(R7. 5月開催)

(3) 企業誘致プロモーション

企業誘致機関への工場適地情報等の提供、市との企業誘致等にかかる情報交換等

3 予算額 875千円

担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 地域共創課	班長(産業振興担当) 三浦 仁志	内線288 (直)0795-73-3775

“シリ丹バレー”構想の推進



1 事業目的

大都市に近接するも自然豊かな丹波地域は、新しいライフスタイルの創造が可能な地域として注目を浴びている。この機会を活かし、内外の産学官民のネットワーク形成を進め、地域発イノベーションの創出・創発を促進するエコシステム「シリ丹バレー構想」を推進し、地域の持つ人・場・資源と外部からの知恵・資金等を組み合わせ、さらなるイノベーション創出を図る。

2 事業内容

(1) シリ丹バレー推進協議会の運営

丹波地域全体でプロジェクトを推進するために、関係機関の参画を得て設立した「シリ丹バレー推進協議会」において、それぞれの課題を共有し、事業の企画・実施を行なう。

(2) “シリ丹バレー”ウェブサイト [silitan-valley.com] の運営

シリ丹バレー推進協議会の活動状況、イベント情報、活動報告等の情報を掲載するとともに、小規模集落や農家等に対する地域課題ソリューションの提供、地域住民と都市部企業や地域企業とスタートアップ企業等のマッチング事例を掲載するなど、地域が必要とする情報の提供に努める。

【ウェブサイトで紹介するコンテンツ】

県起業支援制度、イベントレポート（総会、セミナー等）、コワーキングスペース施設の情報発信 等

(3) シリ丹バレー推進セミナーの開催

シリ丹バレープロジェクトに関心を持った企業、移住者、起業家、地域住民等を対象にDX推進等のセミナーを開催する。

(4) 起業・創業支援等

① 民間副業人材の活用

民間企業のノウハウや企画力を活用し事業を推進するため、副業的人材として地元金融機関から協議会事務局に派遣を受ける。

② ユース起業アカデミーの実施

若者を対象に起業家精神を醸成するビギナーコース、より深く起業のノウハウを学ぶアドバンスコースを開設し、丹波地域でイノベーションを起こす人材の発掘・育成を推進する。

③ コワーキング・スペースのハブ機能の促進

地域内外のコワーキング・スペースのネットワーク化により、地域事業創造のハブとしての発展を促す(地域資源、食等を活かしたコワーキング・スペースでの小規模定例セミナーの開催等)。

④ スマート・コミュニティ・プロジェクトの推進

暮らしやすい持続可能な地域社会の実現に向け、スマート技術の集落等への導入を研究する。

⑤ 丹波ウッドバレープロジェクトの推進

木材関連産業を循環型地域経済の核と位置づけ、丹波産木材の生産拡大、流通・加工の促進、関連産業の裾野拡大を目的に形成された木材関連産業創造ネットワークの拡充を図る。

⑥ 丹波型事業共創コミュニティ形成事業の実施

地域への愛着を抱く地元の起業家・事業者（事業共創パートナー）を中心に、地域主導で主体的に事業を発意して新しいビジネスを興し、地域内外の力を結集し事業を展開するためのコミュニティ形成をめざすとともに、次世代を担う人材発掘に取り組む。

⑦ 事業創造チャレンジ補助の実施

R7年度たんばLPSチャレンジ事業の応募者の中から優秀なものについて、地域内外の企業や人材と連携して事業創造をめざす取組を支援する。

3 予算額 14,401千円

担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 地域共創課	多自然地域づくり専門官 小倉 亜紀子	0795-88-5045

T A M B A の も り び と 10 万 人 計 画 ～ 丹 波 の 森 創 造 プ ラ ン の 実 践 ～

1 事業目的

昭和 63 年に丹波地域の 2 万世帯を超える署名を得て採択した「丹波の森宣言」を起点に、丹波地域全体を「丹波の森」と称して、人と自然と文化が調和した地域づくりである「丹波の森づくり」に 30 年以上にわたって取り組んできた。

しかしながら、時間の経過とともに「丹波の森宣言」や「丹波の森づくり」の認知度は低下しており、あらためて地域住民に上記浸透を図る必要があることから、(公財)兵庫丹波の森協会が中心となって令和 6 年 3 月に「丹波の森創造プラン」を策定した。

このプランを実践し、丹波の森宣言や丹波の森づくりの理念浸透を図るとともに、丹波 2050 地域ビジョンに基づく次代を担うもりびとを育成する。

2 事業内容

(1) 若い世代へ理念浸透を図る積極的な広報

特に若い世代の認知度が低下していることから、年代に応じた数種類のわかりやすい冊子や動画などのコンテンツを制作し、積極的な広報を推進する。

(2) 次代を担うもりびとの育成

森づくりの理解を深めるための研修会等の開催や地域文化を伝える展示と交流の場の創出、丹波の自然を活かした体験活動の実施などを通じて、次代を担うもりびとを育成する。

3 実施主体

公益財団法人兵庫丹波の森協会

4 予算額 1, 4 7 9 千円



担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 地域共創課	班長(丹波の森・青少年担当) 大内 啓	内線 2 9 0 (直)0795-72-5168

たんばユース躍動プロジェクト -丹波 2050 地域ビジョンの推進-

1 事業目的

丹波2050地域ビジョンのシンボル・プロジェクトの1つとして、「丹波の森づくり」を推進するため、丹波の森の再生（グリーンリカバリー）と故河合雅雄先生の理念を継承するとともに、次世代を担う若手世代が、自然体験を通じ、自然とともに暮らしてきた先人の知恵やスキルを学び、生物多様性の推進やふるさとの風土への理解を深めることのできる機会を創出する「たんばユース躍動プロジェクト」事業を実施する。

2 事業内容(令和4年度～)

県立丹波の森公苑をフィールドとして、森の再生を図るために必要な「動物」と「植物」の実態について学ぶとともに、県立ささやまの森公園においても、鳥類の生息を支える森の仕組み等を学ぶ。

《参考：令和7年度実践講座》

(1) 県立丹波の森公苑

①植物の生態を学ぶ

森の成り立ちと植物の見分け方、検索図鑑を用いた樹木の学習

シカの食害による植生の変化を理解する、丹波の森公苑内での影響の現状と対策

②食の恵みを体感する

シカ問題を「食べる」から考える、ジビエ料理の体験と試食

人と野生動物の関わりを考える、野生動物の捕獲と食資源化について

畑から食卓までの循環～有機農業の視点でシカ問題を考える

③動物の生態を学ぶ

野生動物の生息状況の調査方法、センサーカメラの設置

撮影データの分析

④生活環境への恵みを学ぶ

森が有する現代的役割と保全・活用方法

(2) 県立ささやまの森公園

①鳥類の生息状況と調査や整備・管理のあり方について

②鳥類の生息状況と生息環境のフィールド調査

③フィールド調査の発表会

3 実施主体

公益財団法人兵庫丹波の森協会

4 予算額 2,097千円



フィールド調査

担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 地域共創課	班長(丹波の森・青少年担当) 大内 啓	内線290 (直)0795-72-5168

シューベルティアードたんばの支援

1 事業目的

音楽を通じた地域交流・国際交流により、人と自然と文化が調和した森の都「丹波」を創造する「丹波の森構想」を推進するため、1995（平成7）年に始まった「丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば」は、丹波地域の秋の音楽祭として定着し、地域全域では長年にわたり住民主体の各種事業が展開されている。

これらの取組は、他地域には類を見ない音楽祭であることから、当該事業への補助を通じて丹波の魅力を広く発信するとともに、「丹波の森構想」のさらなる推進を図る。

2 事業内容

(1) ガラ・コンサート支援事業

著名なオーケストラを招聘したコンサート(ガラ・コンサート)を開催。

(2) ふるさと音楽ひろば

ア 対 象

小学生を中心とする子ども、家族、地域住民 等

イ 実施場所

学校施設等を活用し、丹波地域10カ所程度で開催

ウ 主な内容

- ・ 音楽家による生演奏を鑑賞
- ・ 音楽についての講話(楽器や楽曲について)
- ・ 児童・生徒、保護者、地域住民による音楽体験(音楽家との共演、演奏体験)
- ・ 児童・生徒の演奏発表及び音楽家による具体的指導

(3) 実施主体

丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば実行委員会



コンサート風景



ふるさと音楽ひろば

3 予算額 1,789千円

担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 地域共創課	班長(丹波の森・青少年担当) 大内 啓	内線290 (直)0795-72-5168

集落文化発掘・体験事業

1 事業目的

丹波地域の集落文化、特に祭礼については、担い手の不足、コロナ禍を経たことによる小規模化・中止等の状況にあり、また若者の集落文化への意識の希薄化といった問題がある。

後世に集落文化を継承・発展させていくためには地域内外の様々な人の参画を得ることが不可欠であるため、「丹波地域祭礼特集ページ」に丹波地域の祭礼の動画を掲載し、地域内外へ情報発信することで、若者の意識醸成、祭礼への参加者や見学者といった関係人口の増加、祭礼の担い手確保を図る。また観光誘客に活用することで、新たな観光客確保に努める。

2 事業内容

(1) 検討会議の開催

プロジェクトチームメンバーを対象に、集落文化の継承・発展、観光誘客等のための新たな取組を検討する会議を年3回実施する。

(2) 動画制作

丹波地域の祭礼の内容が分かるプロモーション用動画（10本、1本3分程度）を制作し、特集ページに掲載する。

3 予算額 1,051千円



本郷春日踊り



丹波竹田祭り

担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 地域共創課	室長補佐兼課長 田路 正崇	内線414 (直)0795-73-3779

丹波2050地域ビジョン推進事業

1 事業目的

令和4年3月に策定した「丹波2050地域ビジョン」で描いた望ましい地域の将来像の実現に向けて「シンボル・プロジェクト」に選定した12の事業を各プロジェクトチームが主体的に推進していく。

また、丹波地域の次代を担う高校生・大学生・新社会人等からなる「第3期たんばユースチーム」を結成し、その提案をプロジェクトの推進に活かしていく。

各プロジェクトチーム、ユースチーム等の活動をつなぐ推進組織として結成した「プラットフォームTAMBA」を運営し、ビジョンの推進に向けた連携、協働を促進する。

2 事業内容（令和4年度～）

(1) 第3期たんばユースチームの活動

「丹波2050地域ビジョン」で描いた地域の将来像の実現に向けて、高校生、大学生、新社会人等の丹波地域に関わりのある若者が、丹波地域の未来を考え、イベントの企画や実施、丹波の魅力発信など地域づくり活動に取り組む。

(2) プラットフォームTAMBAの運営

丹波2050地域ビジョンの推進にあたり、12のシンボル・プロジェクト毎に結成された産学官民からなる「プロジェクトチーム」と「たんばユースチーム」の間をつなぐ推進組織としての「プラットフォームTAMBA」を運営し、年次計画の策定、各事業目標の設定、成果と課題の共有等を図る。

また、令和8年度は現行のシンボル・プロジェクト（R4～R8年度）の最終年度であることから、次期シンボル・プロジェクト（R9～13年度）の選定等についての検討会議を開催する。



たんばユースチームの活動
(虫のすみかづくり)



プラットフォームTAMBAフォローアップ会議

3 予算額 6,037千円

担当部署	担当者	TEL
県民躍動室 総務防災課	班長(企画防災担当) 藤原 猛雄	内線 213 (直)0795-73-3718
県民躍動室 地域共創課	班長(丹波の森・青少年担当) 大内 啓	内線 290 (直)0795-72-5168